

職員による自己評価

A環境面

- 利用定員とスペースの関係は適切
- 職員配置数は 12%が不適切
- バリアフリーは現利用者には適切

B児童への支援内容

- 活動プログラム・打ち合わせ・記録は適切
- 日々の振り返りができていない
- ガイドラインが周知徹底していない

C関係機関との連携

- 障害のない子どもと関わる場がない
- 自立支援協議会に参加していることを知らないスタッフがいる
- 保護者との連携ができていない
- ペアレントトレーニングなどの知識がない

D保護者への説明責任・信頼関係

- 説明責任・信頼関係等は適切

E非常対応

- マニュアル作成等不適切な部分が多い
- 虐待研修がなされていない
- 避難訓練が計画的に行われていない

保護者による評価

A環境面

- 活動スペースは満たされている
- 職員配置は 25%がどちらともいえない
- バリアフリーは、33%がどちらともいえない・いいえと回答している

B児童への支援内容

- サービス計画は「はい」が 9 割を占めている
- プログラムは 100%支持されている
- 他の児童との交流は、7 割がどちらとも言えないと回答

C事業所からの情報発信

- 保護者への説明・共通理解・支援・意思疎通は、「はい」が 9 割以上占めている
- 保護者同士の連携支援の 6 割が「どちらともいえない」と回答
- 苦情対応は「はい」が 8 割

D非常対応

- 非常時については、マニュアル・避難訓練を含め過半数が「どちらともいえない」を回答している

事業所内での分析

【共通点】

- 非常時対応について明確化されていない。保護者にも伝わっていない。
- 活動プログラム等は、保護者・職員共に適切と判断している。
- 保護者への説明責任・信頼関係は、共に適切と判断している。

【相違点】

- 職員が、努力が足りないと感じる部分と、保護者が分からないと感じている部分は共通している。相違点はない

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- 環境面が満たされている
- 活動プログラムの企画・準備・運営・評価がしっかりと行われている
- 保護者との信頼関係ができ、説明責任も果たしている

事業所の改善点

- 障害のない子どもと関わる場がない
- 非常時等の対応について、マニュアルがない等、足りない点が沢山ある
- 児童発達支援管理責任者が関係機関とどのような連携をしているか知らない職員が多い
- 研修の場がまだまだ足りない部分がある
- 保護者同士の連携の支援がない
- ガイドラインが周知されていない

事業所の改善への取り組み

- 非常時に慌てず対応ができるように、マニュアルを作成し、職員・保護者に配布できるようにする
- 研修の場を広げる工夫をする
- 半年に一度程度の保護者懇談会を開催する
- 職員が知らない内容が少しでもなくなるように、周知を図る努力をする
- 障害のない子どもとの関わりを、公園など近い場所から行う努力をする
- 職員配置にゆとりが出るような工夫をする

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

活動プログラムについては、職員保護者共にご理解・共感していただいていることが分かり、今後も自信を持って活動プログラムを計画し更に深めていきたいと感じた。クリームソーダで一番大切にしている部分を客観的に評価することができ、良かった。また、非常時の対応についての明確化ができていず、その場面ごとの対応になってしまっていたが、それがマイナス評価としてハッキリと表れた。今後マニュアル作成にできるだけ早い段階で取り組んでいきたいと思う。良い点悪い点がハッキリと分かり良かった。